

平成 2 2 年度

関東食料・農業・農村情勢報告

関東農政局

《 概要版 》



平成 2 3 年 7 月

農林水産省

－はじめに－

我が国の農林水産業を取り巻く環境は、食料自給率の低下、農業所得の減少、耕作放棄地の拡大など深刻な事態にあり、こうした厳しい状況を打開するため、「食」と「地域」の再生を図るための大きな道標として、昨年3月に新たな「食料・農業・農村基本計画」が策定されました。

関東農政局では、この基本計画に基づき、攻めを重視した農政への転換を進め、農業の発展、農村の振興を図るため、管内の地方公共団体や農業者、食品産業事業者、消費者等との対話を進めながら、農業者戸別所得補償制度、農山漁村の6次産業化、食の安全と消費者の信頼の確保等に向けた取組を推進しているところです。

本報告書の作成に当たって、トピックスでは、①東日本大震災の復旧・復興に向けた取組、②農林水産祭むらづくり部門での天皇杯受賞、③戸別所得補償モデル対策の加入状況、④農山漁村の6次産業化について紹介しています。

本編では、第1部の「特集編」において、食料・農業に関わって各地域・分野で活躍している女性から、農業の楽しさや食料・農村の魅力等をお聞きし、お考えと暮らしぶりなどを紹介しています。第2部の「動向編」では、「食料・農業・農村基本計画」で示された施策を念頭に、①食料自給率の向上と健全な食生活に向けて、②農業の持続的発展に向けて、③農村の活性化・都市と農村の交流等の促進、の3つの章立てで管内の動向を取りまとめました。

－目次－

■トピックス	2
1 東日本大震災の復旧・復興に向けた支援等	
2 農林水産祭で天皇杯を受賞	
3 戸別所得補償モデル対策の支払件数は17万件	
4 農山漁村の6次産業化を推進	
■第1部（特集編）女性が見つけた農業の楽しさと農村の魅力	3
■第2部（動向編） 関東食料・農業・農村の動向	5
第I章 食料自給率の向上と健全な食生活に向けて	
第II章 農業の持続的発展に向けて	
第III章 農村の活性化、都市と農村の交流等	
■巻末参考	8

■トピックス

1 東日本大震災の復旧・復興に向けた支援等

東北地方太平洋沖地震の発生を受けて3月11日、政府は内閣総理大臣を本部長とする「緊急災害対策本部」を、農林水産省は大臣を本部長とする「農林水産省地震災害対策本部」を設置し、被災者の救済や災害復旧・復興対策等に取り組んでいます。

関東農政局では、3月11日「関東農政局災害対策本部」を設置し、局内での連絡・連携体制を整えて、被災の状況と農林水産業への影響、地方公共団体からの農林水産省への要望等を把握しながら、被災地の復旧・復興支援等に努めています。



3月27日、栃木県芳賀町で、がれき集積所の整理作業に参加した職員

2 農林水産祭で天皇杯を受賞

22年11月23日に明治神宮会館で行われた「平成22年度（第49回）農林水産祭」むらづくり部門で、埼玉県比企郡小川町の「下里農地・水・環境保全向上対策委員会」が天皇杯を受賞しました。

全国でもまれな地域ぐるみの面的な有機農業の取組が、優良事例と認められたものです。

参考：関東ブロックでの天皇杯受賞は、元年に静岡県「熊地区活性化推進協議会」が受賞して以来21年ぶりとなりました。



3 戸別所得補償モデル対策の支払件数は17万件

22年度に導入した「戸別所得補償モデル対策」の関東農政局管内における支払件数は、17万620件でした（農林水産省が23年5月13日に公表した速報値）。

23年度からは「農業者戸別所得補償制度」を本格実施しています。

4 農山漁村の6次産業化を推進

関東農政局では、6次産業化を促進するため、22年10月から23年3月までに管内都県で地方公共団体や経済関係団体、農業・食品産業関係団体等を一堂に集めた6次産業化推進連絡会議を開くとともに、各地で説明会を開催しました。こうした取組の結果、関東農政局が22年5月31日に公表した「六次産業化法に基づく総合化事業計画（第1回）」において、30件の事業計画が認定されました。

■第1部（特集編）女性が見つけた農業の楽しさと農村の魅力



可能性を楽しむハッピーな暮らし(千葉県:本間 真理さん)
 南房総での暮らしは楽しい。料理も、食べることも、自然も好き。東京ではできなかったことが、ここではできる。農村には、お金もエネルギーも使わずに“できる楽しみ”がある。
 農業は消費者とのコミュニケーション手段。有機農業は、消費者に伝わりやすい。金銭的には安定しないけれども、可能性はある。後ろ向きにならず、ここに來られたことがハッピーと考え、毎日を楽しんでいる。



兄妹のやる気も生まれたトマト畑(埼玉県:高橋 美幸さん)
 平成20年に出会った“トマトベリー”。インターネットでの販売に手応えがあり、それぞれ別の道を歩んでいた兄妹3人の人生が変わった。
 3人での仕事は、衝突することも多い。でも、意見を言い合うことで良いトマトが出来る。
 有機農業を中心に、食べる人のことを考えた安全・安心で美味しい野菜を提供する。畑には、癒しのパワーがある。嫌なことがあっても畑に出ると、くよくよしていた気が晴れてくる。



りんごが育てた“食”にこだわるうさぎ(長野県:松木 規恵さん)
 自営直売所での販売、販売先への納入、集会への参加時など、いつもうさぎ姿。「なぜ、うさぎ？」と問われると、話したいことが沢山ある。野ウサギは冬りんごの苗木の皮を食べてしまう。雪が溶けた後の畑にはウサギのフンがたくさん転がっている。フンも立派な肥料になる。農業ってこんなものかと気付いた。物心つく頃からりんごは我が家の生活の糧であり、欠かせないものだった。毎年実をつけてくれるりんごに自分も育てられた。今度はうさぎとしてりんごに恩返ししていく。



お客様と接する楽しさ、感じる手応え(群馬県:齋藤 かおりさん)
 接客大好き。小さい頃から見ていた家業。店を手伝い、自分なりに飾り付けもした。「おいしい」と言ってくれるお客様がいる。質が悪ければ売れない。知識が無くても売れない。いろいろと分かってきたら、おもしろくなった。お客様にまた来てもらえると嬉しい。いつしか自分もやりたいと思った。
 とにかくやってみる。テレビや雑誌、旅先や遊びの中にも、ヒントを見付ける。農業も、接客も、商品作りも、やればやっただけの手応えがある。



毎日が楽しい“農”のある暮らし(神奈川県:田中 早保さん)
 畑は楽しい。2歳を過ぎた子は、田の見回りや畑の草取りと一緒にできるようになった。子どもは日々、新しい発見をし、やりたいことを増やしていく。田畑の作物と一緒に成長する我が子の“子育て”を見守る毎日が楽しい。
 農業は子どもの感性を育むのに最適。もちろん大人にとっても。夢は、畑で保育園のようなことをすること。畑に料理を持ち寄って交流の場にもしていきたい。



牛が大好き！楽しく話せる酪農仲間(栃木県:鷹 箸 仁美さん)
 親の背中を見て育ち、「自分は絶対に酪農をしない」と考えていた頃もあった。でも、牛が大好き。今は仕事もこんなものだと思う。自分で決めた仕事なので、苦勞とは思っていない。自分は子どもの頃から牛と触れ合っていた。
 酪農関係者に若い女性が少ないため、「楽しく話をする仲間と場が欲しい」と思い、大学時代の先輩と一緒に、平成20年に「GAL♥とち」を立ち上げた。



美しく循環する農的な暮らし(茨城県:宮永 康子さん)
 野菜と卵を届ける会員へ月に2回、手紙を書く。どのように育ったものなのかを分かってもらいたい。間引きした野菜もあれば、曲がったきゅうりもある。一般のスーパーでは、売れないものだ。以前は、自分も一消費者だった。何気なく買い物をしてきた。
 農業をはじめ、農作物ができるまでに色々なエピソードがあることを知った。手紙を通して、野菜や鶏の生育状況と、食の大切さを伝えている。

自然本来の美味しさにこだわり(埼玉県:貫井 香織さん)

かつては、市場のほとんどが原木栽培だったが、手間や効率性から菌床栽培に替わっていった。

貫井園は、原木栽培にこだわる。“きのこ”本来の美味しさと味わい、良さを知っていただきたいと、時間をかけてじっくり育てている。自分の育てたいだけが、自然本来の“食”を楽しんでもらうために役立てたら嬉しい。

**こだわって育てる本当においしい魚(静岡県:岩本 いづみさん)**

重要なのは、水と餌。魚の養殖では、特に気を遣う。

富士宮の池に流れ込む富士山の湧き水は、極めて質が良い。水温が1℃違うだけで病気が出たりする。頻繁に確認して管理している。

餌は、魚の状態に応じて栄養分を調整しながら自ら作る。手をかけて大事に育てた魚は、本当においしい。川魚をもっと身近なものにさせたいと取り組んでいる。

**光・女性・福祉で地域に愛される農業(静岡県:岩井 万祐子さん)**

農業経営と研究、そして二児の母としての毎日。完全な新規就農だったため、地域に受け入れられ、人間関係を築くまでに苦労が多かった。

学生時代から途上国の農業支援を目指していたが、研究の道に進み、起業、新規就農、商品開発、販売、経営。近い将来、熱帯地域の諸外国に農場を開き、かつての夢を実現させようとしている。目指すのは、地域に愛される農業。

**季節を感じる農業、健康につながる食(山梨県:竹川 春日美さん)**

医者から「一生治らない」と言われた子どものアトピー性皮膚炎に悩んだ。いろいろと体験談を集めているうちに、みんな食事に気をつけていることが分かった。崩れている体のバランスを自然に治すのは、季節の“地のもの”だ。

実家が農家だったおかげで、農業は身近なものだった。季節の野菜を作り、子どもに食べさせたい。食べるものが健康につながる。当たり前のことを子どもの体が教えてくれた。

**「美味しい」と食べてもらえる幸せ(神奈川県:星 佳菜子さん)**

自分が作った野菜を、家族が「美味しい」と食べてくれる。農業は家族の絆。農業は太陽の力をもらえる職業。気候や自然を相手にすることは大変だが、やりがいも大きい。

「父さんが出荷するはずだった野菜をなんとかしなくては」と、母と二人で始めた農業。翌年4月には、直売所へ野菜の出荷も決まっていたが、11月に脳卒中で父が倒れてしまった。思いがけない出来事が人生を変えた。

**田舎と都会を結び笑顔を増やしたい(東京都:中原 知里さん)**

田舎のことを都会の人たちに知ってもらいたいと思いを含めた「田舎会社 東京支店」。あえて本店を問えば、いわゆる「田舎」のすべて。田舎と都会を結ぶ情報発信の拠点。

ここで扱う野菜には、元気なおばあちゃんの顔が浮かぶ。野菜も人柄を表すのだと気付いた。その人なりの生き方やこだわりが形になって実る。「なにを食べたいか」を考えることは、「どんな人が育てたか」を考えること。自分は誰とつながりたいかを考えている。

**農業と健康への思いを“食”で伝える(東京都:館野 真知子さん)**

食べることが健康につながるように、農業を盛り上げていきたい。農家の気持ちを料理で伝えたい。都会にいながらも田舎の食卓にいるような、“ほっこり”した料理を提供する。

六本木農園は、農業の面白さと魅力を語れる所。スタッフは実家が農家という若者たち。彼らは両親が丹精込めて作った野菜や米の美味しさ、農業という仕事の大切さを誰よりも知っている。

**田舎で見つけた“当たり前の暮らし”(群馬県:桐山 三智子さん)**

「笑顔が素敵なお母さんになろう」と決めた。

片品村で出会ったお母さん方の偉大さに感銘を受け、「片品生活塾 Good Mother Project (グッド・マザー・プロジェクト)」を立ち上げた。消費するだけの都会生活ではなく、自分の頭と体を使って食べものをつくり、工夫して生み出す生活。家族みんなでご飯を食べる人間らしい“当たり前の暮らし”。重要なのは、これからお母さんになる私たちの世代だ。

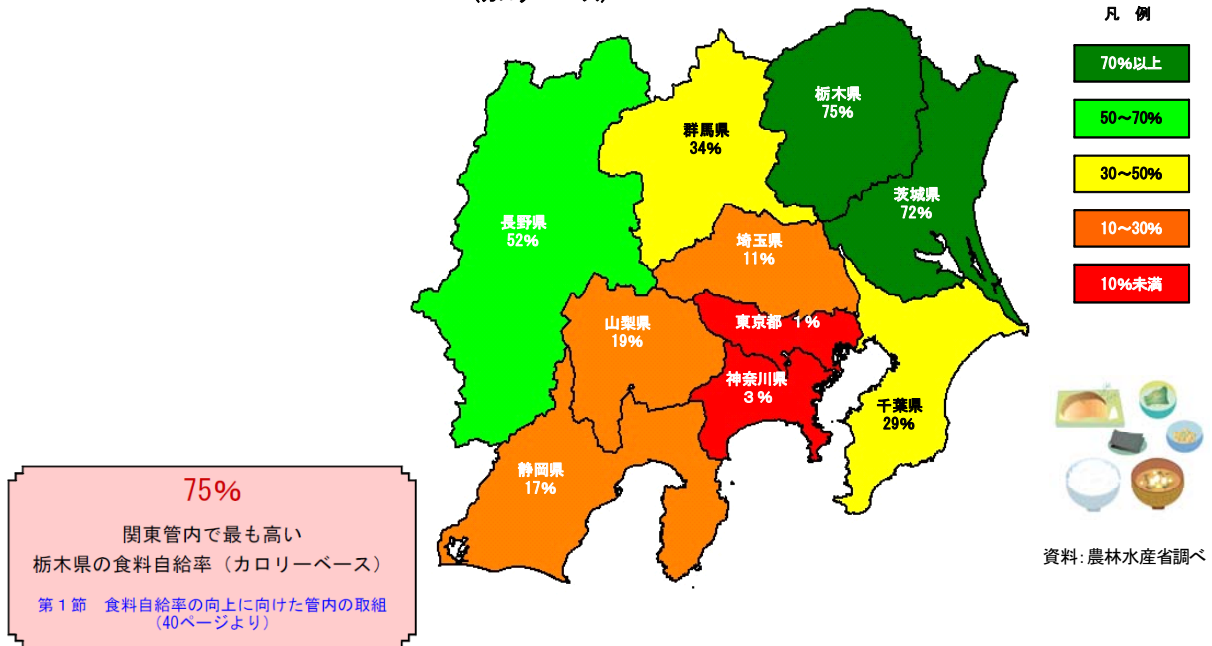


■第2部（動向編） 関東食料・農業・農村の動向

第1章 食料自給率の向上と健全な食生活に向けて

食料自給率の向上に向けた取組や食育の推進、食に関連する食品製造業者や流通業者等の現状、さらには、食の安全に関する行政の取組状況等に焦点を当て、事例を紹介しながらその行動や課題等について取りまとめました。

平成21年度 都県別食料自給率
(カロリーベース)



第1章のポイント

第1節 食料自給率の向上に向けた管内の取組

- ・ 戸別所得補償モデル対策により飼料用米の作付面積が3,146ha、前年比282.7%増加。
- ・ 管内の米飯学校給食が19年度の週2.9回から週3回に増加。

第2節 食生活上の課題と食育の推進

- ・ 食育の一環として134の市町村が「教育ファーム推進計画」を策定。

第3節 食品産業等の現状と取組

- ・ 管内の食品産業のシェアは、食品製造業・卸売業・小売業とも約4割と大きなウエイトを占める。
- ・ 卸売市場の取扱高は全国の4割を占める。

第4節 食の安全と消費者の信頼確保

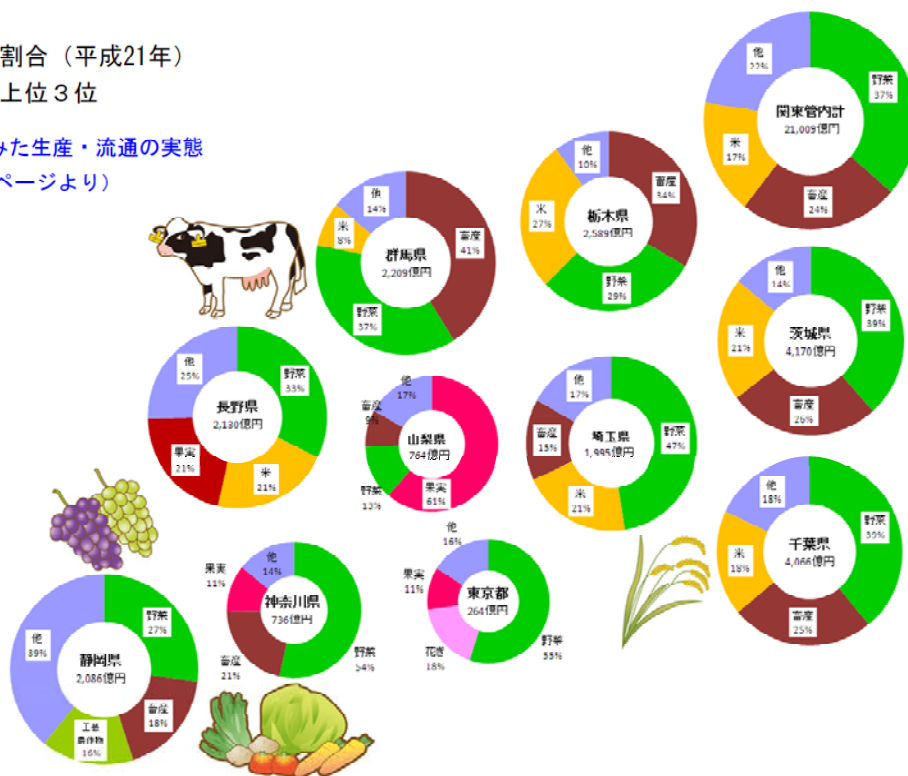
- ・ 農作物のリスク管理等を推進するため、カドミウム、ダイオキシン類、かび毒、かび毒産生菌、農薬の実態調査を実施。
- ・ 「米トレーサビリティ制度」の周知・徹底や「牛トレーサビリティ制度」の監視・指導の実施。
- ・ 生鮮食品等の表示調査等の実施、食品表示110番及び食品表示ウォッチャーの情報を活用した立入検査等の実施により食品表示の適正化を推進。

第Ⅱ章 農業の持続的発展に向けて

農畜産物等の生産状況、経営体の現状、気象状況や災害状況、さらには、持続的な農業を維持していくための優良農地の確保、農産物等の輸出に向けての取組、農村の環境等に焦点を当て、事例を紹介しながらその行動や課題等について取りまとめました。

部門別農業産出額の割合（平成21年）
農業産出額上位3位

第1節 主な作物別にみた生産・流通の実態 (巻末参考196ページより)



第Ⅱ章のポイント

第1節 主な作物別に見た生産・流通の実態

- 管内の22年産の水稲作付面積は31万7,000ha、作況指数98。
- 22年の災害による農地・農業用施設の総被害額は約30億円で平年並み。

第2節 農業経営の動向と農業生産を支える経営体等をめぐる状況

- 認定農業者は22年3月末現在で5万1,503経営体で、前年比1.6%増加。
- 農業生産法人は1,663法人で、前年比11%増加、農業生産法人以外の法人の農業参入は71法人で前年比▲8%減少。

第3節 優良農地の確保と有効利用の促進

- 管内で解消された耕作放棄地面積は約1,800ha。

第4節 農業所得増大のための取組

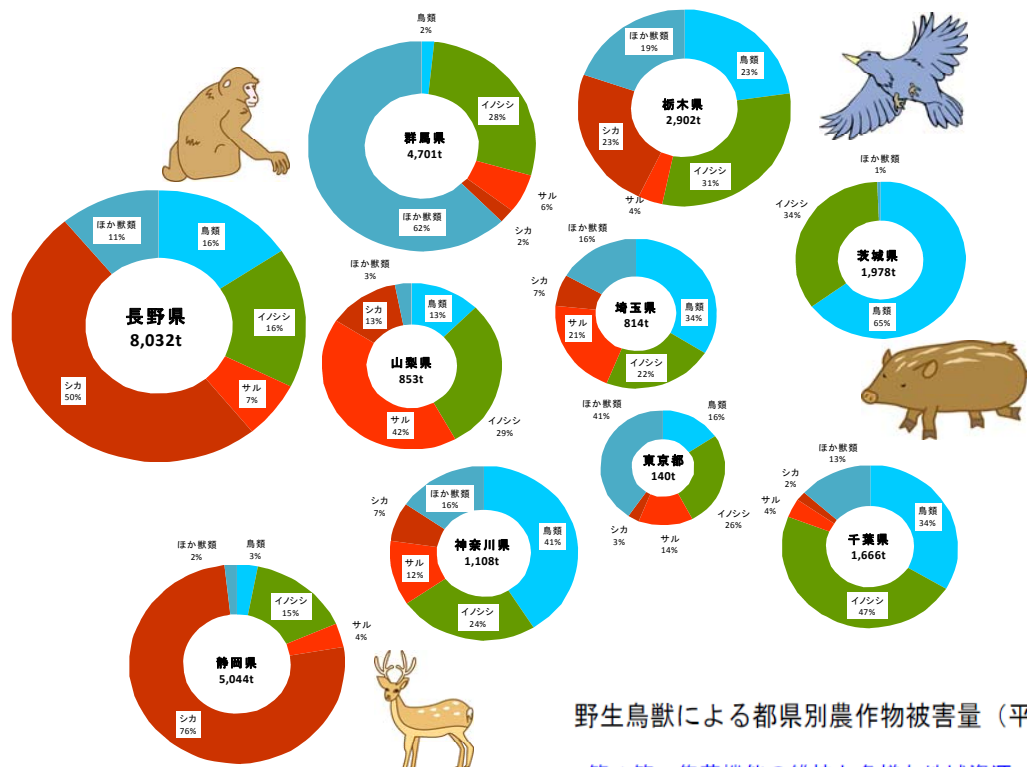
- 地域団体商標制度への出願件数は161件で前年比10.3%増加（23年4月8日現在）

第5節 持続可能な農業生産を支える取組

- 管内の農業用排水路の総延長は9,700km。
- 土地改良区画面積別地区数は、区画の整理統合が進み昨年度より15区画減少し1,070地区。
- 13地区で農業用ハウスなどの農業関連施設に太陽光発電設備等を設置。
- エコファーマーの認定件数は4万2,869件で、前年比1.2%増加。

第三章 農村の活性化、都市と農村の交流等

農山村にあるバイオマスや自然エネルギーなどの多様な資源を活用し、都市と農村の交流等を通じた農村の活性化等に焦点を当て、事例を紹介しながらその行動や課題等について取りまとめました。



野生鳥獣による都県別農作物被害量 (平成21年度)

第1節 集落機能の維持と多様な地域資源・環境の保全
(179ページの参考)

第三章のポイント

第1節 集落機能の維持と多様な地域資源・環境の保全

- ・ 中山間地域等直接支払制度では、180市町村で2,656の協定を締結し、2万2,962haの農用地に交付金を交付。
- ・ 農地・水・環境保全向上対策における共同活動の取組面積は12万93haで19年度の1.4倍。営農活動の取組面積は3,612haで、19年度の4.4倍に増加。
- ・ 21年度の鳥獣被害面積は1万1千ha、被害金額38億円。

第2節 農業・農村の6次産業化の推進

- ・ 農商工連携等促進法に基づく「農商工連携事業計画」を97件認定。前年度より13件増加。
- ・ 食料産業クラスター形成により62件の商品が開発。

第3節 都市と農村の交流等の促進を通じた農村地域の活性化

- ・ 管内の生産緑地地区の指定面積は8,379haで前年より55ha減少。
- ・ 子ども農山漁村交流プロジェクトの受け入れモデル地域は14地域で、昨年度より1地域増加。
- ・ 農山漁村の活性化のための定住等及び地域間交流の促進に関する法律に基づき「活性化計画」を策定した地区は109地区で、22年度は新規に31地区策定された。

■ 巻末参考

1 関東管内都県主要指標

	年次	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	山梨県	長野県	静岡県	関東	全国に占める割合(%)	全国
耕地面積(ha)	21	175,700	127,800	76,300	80,500	129,400	7,800	20,500	25,100	111,300	71,400	825,800	17.9	4,609,000
田	21	100,400	99,400	28,400	44,400	75,400	301	4,060	8,430	55,600	23,600	440,000	17.6	2,506,000
普通畑	21	67,500	23,200	42,200	32,400	49,700	5,730	12,300	4,920	36,000	16,100	290,000	24.8	1,169,000
樹園地	21	7,340	2,590	3,870	3,630	3,700	1,700	4,140	10,900	16,300	30,400	84,600	26.9	314,700
牧草地	21	480	2,600	1,780	80	598	64	72	869	3,380	1,220	11,100	1.8	618,800
耕地率(%)	21	28.8	19.9	12.0	21.2	25.1	3.6	8.5	5.6	8.2	9.2	14.2	-	12.4
総世帯数(戸)	22	1,088,848	745,045	755,297	2,842,662	2,515,220	6,403,219	3,843,424	327,642	794,362	1,398,550	20,714,269	39.9	51,951,513
総農家数(戸)	22	103,221	64,337	57,252	72,957	73,716	13,099	27,996	36,805	117,316	70,283	636,982	25.2	2,527,948
販売農家	22	70,884	47,833	31,914	44,514	54,462	6,812	14,863	20,043	62,076	38,969	392,370	24.1	1,631,206
主業農家	22	14,860	11,015	8,530	8,956	15,544	2,106	4,315	4,789	11,460	10,516	92,091	25.6	359,720
準主業農家	22	15,032	15,354	4,959	10,531	12,757	1,943	3,718	4,301	14,357	9,292	92,244	23.7	388,883
副業の農家	22	40,992	21,464	18,425	25,027	26,161	2,763	6,830	10,953	36,259	19,161	208,035	23.6	882,603
自給の農家	22	32,337	16,504	25,338	28,443	19,254	6,287	13,133	16,762	55,240	31,314	244,612	27.3	896,742
農家率(%)	22	9.5	8.6	7.6	2.6	2.9	0.2	0.7	11.2	14.8	5.0	3.1	-	4.9
総人口(人)	22	2,968,865	2,007,014	2,008,170	7,194,957	6,217,119	13,161,751	9,049,500	862,772	2,152,736	3,765,044	49,387,928	38.6	128,056,026
農家人口(販売農家)(人)	22	298,992	205,474	124,361	178,732	225,534	27,224	61,951	70,799	240,093	169,425	1,602,585	24.6	6,503,219
農業従事者	22	193,396	139,621	84,276	118,336	151,126	18,428	42,696	51,920	178,081	112,638	1,092,518	24.1	4,536,111
農業就業人口	22	113,287	79,881	57,084	71,791	93,901	12,965	28,331	33,271	100,244	70,867	661,622	25.4	2,605,736
基幹的農業従事者	22	91,566	62,600	45,304	58,681	78,904	10,686	24,046	28,313	83,247	63,958	547,305	26.7	2,051,437
農業産出額(億円)	21	4,170	2,589	2,209	1,995	4,066	264	736	764	2,130	2,086	21,009	25.3	83,162
米	21	885	701	185	415	716	1	42	66	456	198	3,665	20.3	18,044
野菜	21	1,595	763	821	952	1,586	145	389	96	682	564	7,593	36.4	20,876
果実	21	132	90	96	76	173	30	84	471	449	236	1,838	26.3	6,984
花き	21	117	64	53	173	189	47	35	27	157	174	1,036	29.5	3,506
畜産	21	1,098	858	895	298	1,033	21	158	68	290	375	5,095	19.3	26,371
1 農業所得(千円)	21	1,249	908	1,754	588	1,527	...	1,377	927	693	1,422	1,091		1,042
1 経営 自営農業労働時間(家族(ゆい・手間替受け含む))(時間)	21	1,492	1,228	2,533	1,539	2,009	...	2,276	1,918	1,659	2,614	1,804		1,658
1 経営 経営耕地10a当たり農業所得(千円)	21	57	39	97	44	92	...	150	113	58	113	68		47
1 経営 家族農業労働1時間当たり農業所得(円)	21	837	739	692	382	760	...	605	483	418	544	605		628

資料：総務省「国勢調査」、農林水産省「耕地及び作付面積統計」、「2010年農林業センサス」、「平成21年農業産出額(全国農業地域、都道府県別)」、「農業経営統計調査 営農類型別経営統計(個別経営)」
注：総人口は、平成22年10月1日現在で、概数値。

2 農作物種類別作付延べ面積

区分	合計	水陸稲 (子実用)	麦類 (子実用)	かんしょ	雑穀 (乾燥子実用)	豆類 (乾燥子実用)
管内 平 . 21	740,800	320,200	41,800	13,800	7,880	24,600
20	744,400	321,600	41,600	13,900	7,790	25,200
19	756,400	331,100	41,200	14,100	7,950	25,400
茨城 県	155,200	79,000	8,500	6,510	2,260	5,970
栃木 県	116,300	64,000	14,200	166	1,850	5,330
群馬 県	67,500	18,200	7,900	318	352	858
埼玉 県	70,500	35,800	7,150	415	329	1,120
千葉 県	121,400	62,100	731	4,790	42	7,100
東京 都	7,210	207	26	133	9	17
神奈 川 県	20,000	3,230	41	406	15	313
山梨 県	22,200	5,330	64	52	191	512
長野 県	96,300	34,600	2,390	98	2,730	2,920
静岡 県	64,200	17,700	820	876	99	496

単位：ha、率：%

区分	合計(つづき)					耕地利用率
	野菜	果実	工芸農作物	飼肥料作物	その他作物	
管内 平 . 21	158,200	58,800	27,900	53,200	34,400	89.7
20	158,400	59,500	28,600	53,000	34,800	89.6
19	159,100	60,200	29,100	53,100	35,200	90.4
茨城 県	29,700	7,120	1,380	7,460	7,300	88.3
栃木 県	9,610	2,730	440	14,300	3,670	91.0
群馬 県	19,700	2,890	3,750	9,110	4,380	88.5
埼玉 県	16,100	2,290	1,390	2,400	3,560	87.6
千葉 県	32,700	3,450	548	4,270	5,630	93.8
東京 都	3,770	1,210	309	252	1,280	92.4
神奈 川 県	9,210	3,570	291	887	2,000	97.6
山梨 県	3,440	10,700	192	1,420	280	88.4
長野 県	24,900	15,600	357	10,200	2,510	86.5
静岡 県	9,130	9,190	19,300	2,840	3,810	89.9

資料：農林水産省「耕地及び作付面積統計」
注：耕地利用率 = 作付延べ面積 / 耕地面積 × 100

3 都県別農業産出額の全国シェア及び順位(平成21年)

単位: %

区分	農業産出額	米	麦類	豆類	いも類	野菜	果実	花き	工芸農作物	生乳	豚	鶏卵	加工農産物	
管内の全国シェア	25.3	20.3	15.4	20.8	26.4	36.4	26.3	29.5	21.7	19.4	28.2	26.4	45.3	
全国順位	1位	北海道	新潟	北海道	北海道	北海道	北海道	青森	愛知	北海道	北海道	鹿児島	茨城	静岡
	2位	茨城	北海道	福岡	千葉	鹿児島	茨城	和歌山	千葉	静岡	栃木	宮崎	千葉	茨城
	3位	千葉	秋田	佐賀	佐賀・兵庫	千葉	千葉	山梨	福岡	鹿児島	群馬・千葉	茨城	鹿児島	鹿児島
	4位	鹿児島	福島	栃木		茨城	愛知	山形	静岡	沖縄		千葉	岡山	宮崎
	5位	宮崎	茨城	群馬	茨城	長崎	熊本	愛媛	埼玉	熊本	熊本	北海道	愛知	京都
	6位	熊本	山形	埼玉	宮城	徳島	埼玉	長野	長野	群馬	岩手	群馬	北海道	熊本
	7位	愛知	宮城	熊本	福岡	宮崎	群馬	熊本	鹿児島	宮崎	愛知	青森	広島	長野
	8位	青森	千葉	滋賀・福井	栃木	熊本	栃木	福島	北海道	岩手	茨城	栃木	新潟	三重
	9位	栃木	栃木		新潟・山形	静岡	長野	静岡	茨城	青森	宮城	岩手	青森	福岡
	10位	新潟	岩手	愛知・大分		埼玉	宮崎	福岡	沖縄	長崎	兵庫	愛知	宮城	大分

資料: 農林水産省「生産農業所得統計」

注: 加工農産物とは、かんぴょう、切干かんしょ、荒茶などである。

4 都県別主要農業部門の割合(平成21年)

区分	農業産出額(億円)	農業産出額部門別割合(%)			耕地面積(千ha)	作付延べ面積(千ha)	農作物作付面積部門別割合(作付延べ面積に対する割合(%))				
		1位	2位	3位			1位	2位	3位	4位	5位
全国	83,162	畜産 31.7	野菜 25.1	米 21.7	4,609	4,244	水陸稲 38.3	飼肥料作物 23.8	野菜 13.0	麦類 6.3	果樹 5.9
管内	21,009	野菜 36.1	畜産 24.3	米 17.4	826	741	水陸稲 43.2	野菜 21.4	果樹 7.9	飼肥料作物 7.2	麦類 5.6
茨城県	4,170	野菜 38.2	畜産 26.3	米 21.2	176	155	水陸稲 50.9	野菜 19.1	麦類 5.5	飼肥料作物 4.8	果樹 4.6
栃木県	2,589	畜産 33.1	野菜 29.5	米 27.1	128	116	水陸稲 55.0	飼肥料作物 12.3	麦類 12.2	野菜 8.3	豆類 4.6
群馬県	2,209	畜産 40.5	野菜 37.2	米 8.4	76	68	野菜 29.2	水陸稲 27.0	飼肥料作物 13.5	麦類 11.7	工芸農作物 5.6
埼玉県	1,995	野菜 47.7	米 20.8	畜産 14.9	81	71	水陸稲 50.8	野菜 22.8	麦類 10.1	飼肥料作物 3.4	果樹 3.2
千葉県	4,066	野菜 39.0	畜産 25.4	米 17.6	129	121	水陸稲 51.2	野菜 26.9	豆類 5.8	かんしょ 3.9	飼肥料作物 3.5
東京都	264	野菜 54.9	花き 17.8	果実 11.4	8	7	野菜 52.3	果樹 16.8	工芸農作物 4.3	飼肥料作物 3.5	水陸稲 2.9
神奈川県	736	野菜 52.9	畜産 21.5	果実 11.4	21	20	野菜 46.1	果樹 17.9	水陸稲 16.2	飼肥料作物 4.4	かんしょ 2.0
山梨県	764	果実 61.6	野菜 12.6	畜産 8.9	25	22	果樹 48.2	水陸稲 24.0	野菜 15.5	飼肥料作物 6.4	豆類 2.3
長野県	2,130	野菜 32.0	米 21.4	果実 21.1	111	96	水陸稲 35.9	野菜 25.9	果樹 16.2	飼肥料作物 10.6	豆類 3.0
静岡県	2,086	野菜 27.0	畜産 18.0	工芸農作物 16.2	71	64	工芸農作物 30.1	水陸稲 27.6	果樹 14.3	野菜 14.2	飼肥料作物 4.4

資料: 農林水産省「生産農業所得統計」、「耕地及び作付面積統計」

注: 四捨五入により、計と内訳が一致しない場合がある。

平成22年度関東食料・農業・農村情勢報告の全文と過年次の情勢報告は、下記の関東農政局ホームページに掲載しています。

第1部（特集編）では、これまでに、担い手、地産地消、都市農業、市民農園、遊休農地の有効活用等をテーマにしてきました。

<http://www.maff.go.jp/kanto/kihon/kikaku/jyousei/index.html>

編集・発行 関東農政局 企画調整室

〒330-9722 埼玉県さいたま市中央区新都心2-1
さいたま新都心合同庁舎2号館
電 話 048-600-0600 (代表) 内線3104 (企画調整室)
F A X 048-600-0602 (企画調整室)

関東農政局ホームページ <http://www.maff.go.jp/kanto/>